

平成28年度 第1回黒松内町総合教育会議事録

1. 期 日 平成28年9月6日(火)
午前11時05分から午後0時00分
2. 場 所 コミュニティ防災センター 町民活動室1
3. 出席者 (構成員)
町 長 鎌 田 満
教 育 長 内 山 哲 男
教 育 委 員 池 田 重 人
教 育 委 員 小 林 尋 子
教 育 委 員 成 田 志津代
教 育 委 員 岡 久 孝 雄
(事務局)
教育委員会教育次長 鈴木浩勝

本日の会議に付した事件

- (1) 新教育委員会制度施行について
- (2) 当面する黒松内町教育課題(協議)について

会 議 の 顛 末

事務局 平成28年度第1回黒松内町総合教育会議を始めさせていただきます。
それでは、次第に基づき進めます。1番挨拶、鎌田町長よりお願いします。

町 長 今日は、お忙しい中、そして天気の悪い中、出席をいただき本当にありがとうございます。

みなさまには、日頃から本町の教育の推進に大変なご理解ご協力をいただいておりますことに対し、深く感謝を申し上げる次第でございます。

心配した台風10号は、十勝や道東方面では大きな被害が出ており、黒松内町では風の被害が若干ありました。ビニールハウスが壊れたり、牛舎や倉庫の屋根が一部飛んだり、車庫の全壊が2、3件ありました。木も多く倒れましたが、人的な被害はなく、道東に比べると小規模なもので安心をしているところです。

本来であれば、これから台風のシーズンでありますから、しっかりと準備をしたいと思っております。

本日の協議内容は、教育大綱策定等々とありますが、みなさんとせつかくの機会がありますから、これ以外のテーマも含め、いろんな情報交換、ご意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げ、簡単ではありますが開会の挨拶とさせていただきます。今日はありがとうございます。

事務局 続きます、2番出席者の紹介でございます。

今回の総合教育会議は、町長をはじめ4名の教育委員のみなさま、教育長が出席しております。名簿は3枚目に付けておりますのでご覧ください。

それでは、3番議題に移らせていただきます。(1)、(2)の議題がございますので、町長に進行をお願いします。

町 長 1番目の議題は、新教育委員会制度施行の3項目、事務局から説明ください。

事務局 (1)新教育委員会制度施行を終えてという形で、みなさんからのご意見等々、また、感じたことがございましたら、お話しください。

新教育委員会制度に基づき、本町では総合教育会議を本日ご出席の方々を構成員とし、昨年7月に発足しております。

また、町長が定める教育大綱では、みなさんのご意見等々を参考とさせていただきながら昨年12月に策定をし、関連する取り組みとなるいじめ問題では、対応や各役割等々を明記し、いじめのない子ども達の暮らしができる学びの場ということでの基本方針を今年の3月に制定しました。

教育長は、任期終えた昨年9月に新制度に基づく教育長としての任命をさせていただいております。

町長と教育委員さんとのそれぞれの教育課題を意見交換や協議する場として初めて出来ました。これらを踏まえて全般のお話になりますが、ご意見をいただければと思っております。

町 長 ただいま説明のとおり、新しい制度が1年経過しました。

教育長は新制度により、身分及び任期が若干は変わっております。

新制度になり、あまり急激に何かが変わったということではないのですが、お話のとおり私もこうして教育委員のみなさんといろんな面で、ざっくばらんなお話ができるということは、今まではない訳ではないのですが、少なかったことから有意義な会議と思えますし、これからもどんどんいろんなご意見をいただければと思っています。

新しい制度や教育大綱に関して、ご意見があれば承ります。1番目と重複しても結構だと思いますので、引き続き2番目に移らせていただきます。

2番目の当面する黒松内町教育課題であります。

9月末をもちまして2名委員が任期満了となります。本人のご意向もあり、1名は継続して、もう1名は新しい委員の任命を考えており、来週からの町議会に議案して提出します。

なお、新制度に関わる分として、教育委員の任期が一度に重ならないようにということで、今回、任期をずらすこととし、3年と4年の任期にさせていただきます。これにより4人の教育委員みなさんの任期が、重ならないようになります。

町 長 あと、何か学校関係ではありますか。

事務局 先ほどの教育委員会では、ご報告ができませんでしたが、町長のご挨拶にもありました台風10号の関係です。

風が強く黒松内中学校では、駐車場の東側で倒木がありました。トドマツが折れて、電線に引っかかり、3時間程の停電がありましたが、復旧は午前中には終わっております。関連工事は、これから別にすることになっております。

また、白井川小学校では敷地内のトドマツが3本ほど倒れ、撤去作業は終わっています。しかし、小学校左側ある自転車置き場に倒木が当たり、屋根の一部が曲がっていますので、今後、直す予定です。

町 長 校舎には影響がありませんでしたが、黒松内中学校ではテスト時間帯に重なってしまった。

事務局 2学期制で、期末テスト中でした。

町 長 一時少し心配したのですが、そんなに時間がかからなく復旧したので、あまり大きな影響はなかったと思っています。

今回はたくさんの倒木があり、道路も一時通れなくなった個所がありました。

事務局 西の沢地区でも道路に木が倒れ、スクールバスが行けない状況でした。教育委員会は事後に聞きましたが、運転手さんが自宅に「バスが行けないので、申し訳ないけれど少し手前まで歩いて来てくれますか。」との電話対応をして、概ね定刻に学校へお送りすることができました。やはりこのような災害があれば、教育委員会として学校施設の管理だけではなく、スクールバスの運行にも配慮し、現況情報の把握をしていかなければならないと感じました。

町 長 予報通り夜中に、強い風が吹きました。

委員② そうですね。

町 長 警戒をしておりましたが、午後9時、10時くらいまではそんなに強くなかった。もう大丈夫かなと思ったら最後の1時間、本当に強かったのは1時間くらいだったと思います。黒松内町では瞬間最大風速が25メートルくらいです。

教育長 町民センターの外灯が、体育館の工事現場から建材の発砲スチロールが飛んで割れる被害がありました。

委員② 風が強いと、発砲スチロールでも割れるのですね。

町 長 ちょっと厚手の発砲スチロールでありましたが、それ以上にすごい風でしたので、割れたと思います。

教育長 職員が対応して、ケガはなかったのですが、結構、翌朝、割れたガラス片があり、工事現場の人達が後片付けをしていただきました。

自然災害は起ります。それに対して、どのように危機管理を持つかが、大切であると思っています。

生涯学習施設とともに学校では児童生徒の安全・安心が第一です。そして、住民の安心・安全が第一だと町長からも言われていますので、まずその観点に立ち、次の予防策を行うよう指示をしています。

今、予報関係はかなり頻繁に来ます。例えば、待機命令が出た場合には公用車の燃料を満タンにしておくとか、日頃から危機意識を共有していくことは、とても大事なことと感じました。

町 長 備えることの意識は大切です。

通常、町では、情報収集に歩くような場合のため、班分けを各課単位でしています。

今回も、今朝から巡回していますが、だいたい峠が済んでからなので、みんな自由に行けますが、これが水が出たとか、洪水になった場合であれば避難場所の開設にも

人手が必要です。現在の情報収集だけで職員が全員出してしまう体制は、まずいんじゃないかと言ってたんです。災害になると避難所を作る方にも職員を割かなくてはいけなく、情報収集にも人を割かなくてはいけなく、職員の役割分担を何パターンも想定して事前に決めておかなくてはいけなく。初歩的な話で、まだまだ申し訳ないのですが、そんなことも南富良野町の災害を見て、思っています。

教育長 南富良野町では、昨日も学校が休みになり、中学生が泥の掻き出しのボランティアをしています。

やはり、ボランティアをする自分たちは被害者じゃないんだという感覚。この前の講演にもありましたが、自分たちがやれることをまず住民がやるという、それは単なる防災とか減災とかではなくて、日頃のコミュニケーションによるものと思います。

多分、黒松内町では、体育館に避難した際には、体の不自由な方や災害弱者の方ではない他の住人は、きっと黙っていない、自ら動くと思っています。

そういうことが日常の地域づくりなどに、とても色濃く出てくると思うので、「もし、うちの町であったら。」と考えてみると、まだまだやっておかなければいけないことはあります。

これは、教育委員会で行っている教育や地域づくりに関して、「あっ！これはできる。」とか、釜石市の話を聞いたりすると、子どもたちと言いながら中学生の力は、組織で動けば相当なものがあります。そのことから、災害に関しての防災教育を、広げていければ良いと感じました。

町長 そうですね。防災講演を聞いて、私もまずは行政としてやることと、住民の皆さんにもお願いして自分でやってもらうことがあるんです。講師の方は、「住民の意識を高める。まずは、防災意識の高い子どもたちの育成っていうのも必要ではないか。」と言われていました。

私たちは、どちらかという大人目線で大人対象の災害対応ばかり考えていたけれど、そうだなと思いました。今、学校で避難訓練等々は年に数回は行われていて、火事を想定した訓練はあるのかもしれないが、地震や洪水を想定した訓練も行うべきと、学校と話をしながら少し感じました。

教育長 やはり、黒松内町では避難したとき、ほとんどの方々が、職場復帰すると思います。

そうすると、子どもたちだけが残るため、夜しっかり寝れる状況を作り出さなくてはいいけない。

私は、黒松内町に来て、社会教育の人たちも含めて、子どもたちを名字でなく名前前で呼んでいるのを見て、人と人とのその身近さに驚きました。ここで何かあっても、子どもたちを集めて、児童館の職員らが子どもたちを2日くらい面倒みることができれば、保護者の皆様は職場に復帰できる。

そういう意味の訓練は必要と思っています。平静さ、日常感を取り戻すことが大事で、1番は子どもが学校に行くとか保育園に行くことができること、すぐに先生が来

て教室や避難所の中で集まり取り組みをすることです。これは、少ない人数だからこそ、可能になる取り組みであると思っています。

町長 町では、新聞記事で取り上げられましたが、地震を想定した防災グッズや食糧の備蓄を、年次計画で徐々に行います。各小学校単位には避難所もありますので、工具や照明、プロパンを使用した発電機を用意したり、簡単な食糧品や飲料水を備蓄しています。

後々、避難時に介助や介護が必要なお年寄り等々の移動手段、そして、避難場所に集まってもらった時には、次の指定避難所では生活も大変だろうということで、町内の社会福祉法人と福祉避難所の協定を結ばせていただき、各施設可能な限り受け入れていただく体制にしています。

この度の熊本地震の例では、震源地が近いと社会福祉施設の全部もしくは一部が被害を受けたり、職員が来ることができなければ、現実には町民を受け入れてはもらえないのではと心配しており、例えば、社会福祉法人の系列で倶知安や泊、京極の町外にある施設と所在町村にも加わっていただき、福祉避難所の協定を結ばせていただくのも1つの方法であると思っています。

教育長 町民が、日頃からふれあい祭りなどで社会福祉施設の職員や入所者とふれあっており、活きる体制が黒松内町にはあると思っています。

人とのつながりがあることで、町民が職員みたいには出来ないけれども、3人くらいで1人分のことを支援し、職員が職場復帰するまでの時間がある程度かせぐことは可能ではと思っていますし、多分そうゆう動きは必然的に出てくるだろうと思っています。

この姿を多分子どもたちが見てくれて動く、災害がないことが望ましいのですが、もし、あったときには動いてくれる町というのは福祉の町をやはり標榜していると言えます。町民の気持ちの持って行き方は、教育にも十分関連すると思いを聞いていました。

委員① 私の町内会では、自主防災で避難訓練を行っていますが、1番の課題に思っているのは、子どもの参加がないことです。

老人の方はどこにいたりとか、独居老人の方はどこだという認識は皆さんも持っていますが、子どもたちに危機意識を持ってもらうために、何とかひっぱり出してきています。

災害が学校にいる時ではなく、家庭にいる時に起こるかもしれないので、子供会に働きかけをして少しずつ子どもの参加を、増やしたいと思行っています。

委員③ やはり、災害というのは、自助だから自分たちそれぞれが、どれだけ自分を守れるか、そして、身近な人を守れるかが1番だと思います。

例えば、消防では防災士の資格を持っている方たちがほとんどですか。そうであれ

ば、講習等で学んだ内容で、地震が発生した場合に、私たちはどこにどうして行けばいいのか、水がどこら辺に出た時はこっちに行くとかを分かっているのではないでしょうか。

ある程度の防災マップは出来ていると思いますが、北海道では災害がいつもスーッと逃げてくれるので、警戒予報は出ていても大丈夫だろうと思っています。

今、世界もそうですし日本でも大きな災害が発生している状況であり、これは準備しなくてはいけない、そこもギリギリのところまで来ていると思いますので、委員のお話のとおり、まず私たち自身がこうなった時は隣のばあちゃんを、どこにどうやって車に乗せて連れて行くだとか、それすらピンとこないでちゃんと覚えておかななくてはと思いつつ、また時間が経つというのが実際です。

もっと自分の身を守ることを学ぶ場をもっと作っていくと、町民が変わってくると思います。

町長 避難訓練を全町規模で行っても、現実的ではないのかもしれない。

委員② 避難訓練は、いつも明るい時に行っていますので、1度、夜暗い時に避難訓練をしてはどうかと思っています。

町長 なるほど。

委員② この前の少し風が強い時、家に私ひとりで不安でした。誰も居なかったため、薬を飲んで早く寝ました。やはり、夜がなお不安でした。高齢者が多くなってきましたので、夜の避難訓練を1度行ってはどうでしょうか。

町長 分かりました。

委員② いつ、起きるか分からないので。

町長 考え出すと、切りがなくなります。

委員② そうなんです。

町長 冬はどうするんだと言ったら、また考えなければならない。

まずは、小さい単位の避難訓練ということで、市街地以外で1カ所と市街地でも何地区かまとまろうと、おっしゃる通り少しは身近な問題として捉えていただけるように。全町規模だと、なんとなく皆が来てうまくやったというイベント感覚になってしまう。少しは、小さい単位の中で消防団や警察にも加わっていただいて、最近実施しています。ただ、日中の想定です。

委員① 今年は、どの地区で実施するのですか。

町 長 総務課では、まだ、はっきり承諾をもらっておりませんが、作開地区周辺で1カ所と1区と2区、3区を1つにして行いたいと考えています。

委員④ 教育長の先ほどの話ですが、熊本県の地震のように予想していない地域で発生したように、本当に子どもたちに防災意識を教える必要があります。比較的町内の家庭は福祉施設に勤めてる方も多いので、そうなるとう然家庭もありますが、職場はかなり混乱すると思いますので、親御さんが職場行ってしまうと子どもだけが取り残させる可能性が結構多いと感じます。やはり、子どもが自立できるよう、防災意識を高めることが必要と思います。

教育長 子どもたちは5年生で宿泊研修がありますが、兵庫県では神戸の震災前に5泊6日の通学合宿をずっとやっていたんです。この経験値を通して、災害時も親や先生でない人の意見も聞いて、自分たちで動けるという下地があったというのを、後から聞きました。ある意味、子どもたちは親でなくても誰とでも、しっかり集団生活をし、安全にいれる力があつたと思います。

これにより保護者の人たちが、安全に仕事をするにも、家族の安否がしっかりしていれば、あそこに居るから大丈夫だとなれば、やはり違うと思います。そういう体制も教育の場では、必要であるとすごく思います。

子どもたちの異学年の集団活動で、例えば、自分たちで炊飯ができるとか、避難所は不特定多数が来ることから、男女のトイレの所に必ず誰かが立つとか、今はいろいろなノウハウがあるので、それをきちんと教えていく場面、また、黒松内町だけではなく都市部に行った時のことも必要と思います。

桝添前東京都知事が、東京災害マップを作りました。あれは中学生でも読めるので、社会教育で防災図と都市部に行った時にどうするのかを、事前に考えておくことは、田舎の災害とは違うところがあるので、教育として必要であると思いました。

委員② 災害は、どこで起きるか分らないです。

委員③ 中学生や高校生のボランティアは、受け入れる側の人たちも本当に心開いていると実感します。

教育長 ボランティアは、一朝一夕には出てこないと思います。福祉の心が、根付いていることが必要と考えています。

学校には、福祉教育の充実を言っていますが、最終的には、福祉という言葉がなくなった時に福祉は完成していくとおっしゃる方もいます。亡くなった社会福祉法人の前理事長さんもこう言われてて、ようするにそうゆうものがなくてもきちんとして生活できるという、そういうところは、やはり教育であるという捉え方をしていました。

9月町議会の一般質問で、家庭教育の話が出されています。家庭は、全ての教育の出発点であると、これは間違いないだろうと思っています。

この夏、本州で起きた事件の時に、家庭で何かがあった、家庭の問題や教育は個々の家庭の責任、他人には頼れないと思っている人が多くいるのではないのでしょうか。

今、やはり子育てと仕事の両立は難しい、忙しく家庭の孤立化、時間的・精神的なゆとりもないという状況であった時に、教育委員会は決して個々の家庭だけの問題ではないという立場をとりたいと言いたい。

そして、保護者の皆さんが安心して子育てや家庭教育ができるよう、改めて家庭教育の大切さを地域社会全体で考え、支援する足場を、しっかり行いたいと思っています。

子育て施策の充実は町長の公約の一つであり、昨年度から子育て支援グループが加わり、新たに一時預かり保育を始めるなど、十分ではないのですが色々な子育て家庭を支援しています。

子育ての世代が安心するためには、家庭教育は家庭の問題だろうと切るのではなくて、それを社会でどう支えていくかの仕組みづくりが、教育委員会としては重要であるとの立場を明らかにしていきたい。教育委員の皆さんはどう思われているか、意見をいただけますでしょうか。

委員① それは、すごく大事だと思いますし、1番の根本です。やって良いことと悪いことの分別はもう生まれた時からで、小さい時は親子の関係として、学校上がったら先生と家庭、それを各自が持っていくことによって学校とのつながりも深くなるし、やはり出だしは家庭です。

今の子育ての問題にもつながっていきますので、一番最初の出だしからきちんと、やっていいことと悪いことの判断を個々を育てるうちに、段々に分かってくると思いますので、この点から進んでもらえれば、いいと思います。

委員③ 卵が先かニワトリが先かのような感じで、家庭内の関係が本当に根本だと思いますが、その家庭はその前の家庭があって出来たこととかがつながっています。例えば、おじいちゃんがこうだったもっと前のおじいちゃんもこうだった、そのつながりの中で私たちはいるんじゃないかと感じます。

それと同時に、時代性や土地柄などが影響しているとしたら、教育長がおっしゃったように、本当に皆で支えていかななくてはいけない。

委員② それはそうです。

委員③ そこが、根本です。

だから、ただ曖昧に甘くというのではなく、そこに優しさや愛しか、解決方法はないような話がよくあります。そういうものが優しい言葉掛けや受け入れる体制などが、1番早い近道ではないかなと、教育長が話された中に含まれていて、私は本当にそれ

が大事だろうと思わせていただきました。

委員② 1番出だしが大切です。

委員③ 出だしがあつて、結果が出ているという状態で、どうするかと言うことを考えていかなければならないと思います。

委員② 保育園や小学校でも、小さい頃からそういうことをきちんと分からせてもらうといふかね、今、中学生は、良いことと悪いことは分別はつきます。

でも、小さい時から良いこと悪いことの判別をつけさせていくうちに、どんどん温かみのある人間として、育っていくような気がします。

委員③ 一人の失言で、変わるがあります。

教育長 個々の家庭の責任だたという風に突き放してしまわないという事です。

委員④ 児童福祉法の改正で、市町村の役割が明確になってきましたので、家庭は一時的なものですが、目の前の環境になかなか当てはまらないお子さんが必ず社会の中にはいる。

それがやはり社会、市町村でしっかり責任を持っていく。当然お子さんもそうですし、そのご家庭も支援するという事なんです。それは、必要と思います。

理想は、ご家庭で基本はしっかりと行うべきであるけれど、なかなか全ての家庭ができる訳ではありません。生まれた時から、現実にはできないと思いますので、社会全体を保つためには、市町村の責任で支援していかななくてはならないと思います。

町長 そういう意味でも、教育委員会の保健師が子育ての取組と一緒に、1歳半健診や3歳健診当たりから、健康だけでは無く、その家庭の事情もある程度把握ができ、教育委員会を通じてどう支援していくかを考えることは、大切なことだと思います。

学齢期よりも、もっと早い段階で把握することにより、少しは早い時期で対応できるのではないかと考えています。

町長 中学校の修学旅行は、学校側からの要望等いろいろあり、大きく見直しを行いたいと思っております。学校現場の声を尊重しながら、しかし、平和学習や姉妹市との交流も大切ですので、別な角度からまた継続したいと思っておりますので、ご理解をお願いします。

JRの話題です。減便になり、特に高校生の通学の確保が大変な問題になっています。長万部高校生が非常に影響があり、クラブ活動をやっている生徒は帰りの汽車がないということで、現在は長万部町のご厚意により、蕨岱まで来ている中学校スクールバスを黒松内まで延長していただいております。

また、ＪＲは、長万部町内にある北豊津駅と蕨岱駅を、廃止したい旨を長万部町に伝えています。蕨岱駅は本町の歌才地区の方も利用されていますので、廃止された場合には不便になることから、黒松内町と長万部町が一緒になりＪＲ函館支社に廃止の見直しを要望しています。

もっと大きな話題では新聞にも報道されているように、道内には赤字路線がたくさんあり、ＪＲでは秋までに各路線毎に、今後の対応を市町村にお知らせするとありますが、本町にはまだ来られていません。現在は、災害復旧対策を優先していますので、今後の対応のとりまとめは、もう少し後になるような話が伝わっています。

ＪＲの方針が示された段階では、黒松内町だけではなく函館線沿線自治体と協力しながら対応することになっています。

函館本線で１番赤字なのは長万部・蘭越駅間でＪＲはなんとかしたいが、廃止した場合は室蘭線を巡回することになり、今、ニセコが観光で盛り上がってるのにどうするかや、有珠山がいつか爆発があれば運行できない状況になります。災害時の迂回路として、まだまだ必要と考えます。

１つの沿線自治体だけではなく、国として北海道としてどう公共交通機関を守っていくのかを、ぜひ考え欲しいと機会をみてお話をさせてもらっています。

委員② 高齢者は、病院に通うのが大変なようです。

９月２日はＪＲが不通になったのですが、それを知らないで駅へ行くと列車が止まっていた。私は帰りで、倶知安駅までは列車が出て、倶知安駅から黒松内駅間は代行バスがありましたので帰って来れたのですが、こっちから行く人は行けなかった。だんだん病院行くのに困ってるみたいです。

町長 長万部・函館駅間が、台風の影響でかなりの倒木があったのですが、運休したのは蘭越駅まででした。一応エリアがあるのでしょうか、函館支社のエリアがそこまでですから。そんなことも考えながら、ＪＲの減便や廃止等で不便になった住民をどう救うかを、考えなくてはいけない。

社会福祉協議会で移送サービスを行っています。障害がある方などとの一定の条件がありますが、料金負担をいただき、通院の足として車で送り迎えする制度です。

高齢化もあり、年々利用が多くなり、一台では間に合わないとの話になっています。

通院者等のＪＲ減便の影響を、このサービスで対応したいと思っていますが、現実的には難しい。ただ、これもあまり行くと、ハイヤー会社やバス会社の経営を圧迫してしまう、競合してしまうことになりますから、行政としてもあまり大々的に行えなく悩ましいことです。

委員③ ＪＲでは、どこの路線のどこの利用がどうというのは全部チェックしているのでしょうか。

町長 駅舎ごとに乗車率等は、チェックしているようです。

不便になるから乗らないし、乗らないから廃止になるという悪循環です。これから、秋から冬にかけて、JRからいろんな動きが出てくると思います。

少し先の話ですが、教育委員会では町営の学習塾を作れないのかと、地方創生関連の地方推進交付金を要望する予定です。単に、学力向上だけではなく、ふるさと教育も盛り込むものです。教育委員には説明していますか。

教育長 しています。今、ヒアリングがあり検討しています。現在、町内では塾をやっている方が一人いらっしゃいます。来年でなくなる予定と聞いていますので、平成29年か30年に前倒しで行えないかと、そして、基礎学力の向上だけではなく、環境・福祉も含めた形の中で出来ればいいなどは考えています。

町長 教育委員会関連では、国の推進交付金も使いながら行いたいと思っています。新聞には、国がこれだけ予算がありますと出てますが、決める段階になるといろいろな基準があり、市町村にとっては厳しい査定があります。キャンプ場の取組でも、推進交付金がありますか。

事務局 コンサルティング経費の計上を考えています。

町長 キャンプ場は人気がありますが、老朽化しており、利用者も減少傾向になっていますので、観光が今盛り上がっているうちにテコ入れをしたい。教育委員会では、専門家からいろいろなアドバイスを受けるため、交付金を使用できないか考えています。

予定していた時間になりました。私も本当はまだまだ話したいことがたくさんありますし、委員の皆さんからもいろいろなご意見も聞ければ良かった。もっと時間があつた方がいいですね。次回は、時間配分も考えながら開催いたします。

今日は、これで閉じたいと思います。本当にありがとうございました。

委員等 ありがとうございました。